

おがわ

小川村ふるさと通信

No. 218
(2019年春号)



恵光を浴び、秒単位で表情を変える北アルプス。
私はそんな午後の君が好きです。

(写真 松本博充)

- お寺さん こんにちは
- 素晴らしい仲間との絆
- 分館紹介 - 小根山分館 -
- サークル紹介 - 太鼓衆 岳響 -
- 小川に生きる
- 図書室だより
- 成人式



お寺さん ほんにちは 金剛寺



最近では、お葬式や法要などでしか立ち寄りなくなっ
てしまったお寺。昔は地域
の中心となり、住職さんも
地域の相談役だったり、子
供の頃は遊び場だったりし
たのではないのでしょうか。

今もう一度近所のお寺さ
んを身近に感じることはで
きないかと思い、住職さん
にお話を伺いながら紹介させていただけます。

二回目の今回は真言宗豊山派 仏性山 金剛寺で
す。金剛寺住職、松本栄仙（涛仙）さんは、日本画
に取り組んでいて、東日本大震災被災地の、福島県
浪江町の清水寺から依頼されている天井画を現在製
作中です。

また、本堂にある寄贈されたふすまに住職が描いた
長さ五、四メートルの『雲龍図』は圧巻です。
そんな住職から、大変興味深いお話を伺いました。

（松本博充）



袖振り合うも他生の縁

松本栄仙

袖振り合うも他生の縁と聞くと、ああ知ってるよと
言われます。では書いてみましょうと言うと『多少の





縁」と書く方が多いよう
です。本当は【他生】か【多
生】が本来の字です。

人と人との縁は目には
見えませんが、すべて単
なる偶然ではなくて、前
世からの深い因縁によっ
て起こるものですから、
どんな出会いも大切にし
なければいけないという
仏教的な教えに基づいて

います。

人は前世からの因縁で夫婦になったり、兄弟になつたり、また色々な立場（近所・友達・会社等）になります。ですからこの世で袖が良く触れ合うと言う意味ではありません。

「他生」とは六道を輪廻りんねして何度も生まれ変わるという意味もあります。これを輪廻転生りんねてんじょうと言います。

※仏教では因縁とは原因には因（もと）があり、それをつなげる縁（つなげるもの）が構成されていると言う意味を短くした言葉です。

仏教では世界は10の世界があり、下から6つの世界を人間は巡るとされています。上の4つの世界は仏の世界とされています。

この6つの世界を六道と言ひ 六道とはこの世の世界を下から数えると

- 地獄（じごく）
- 餓鬼（がき）
- 畜生（ちくじょう）
- 修羅（しゆら）
- 人間（にんげん）
- 天人界（てんにんかい）

の世界を言い表します。

ですから人間は行いによつて、この六つの世界を生まれ変わり、これを輪廻転生と言います。ですから善行を積み悪行をしないと教えます。

自分の行いにより、自分だけでなく、妻や子供に因果応報（自分の行いによる悪いことが起こる事）と言う悪縁がつながる事を避けたいものです。

すばらしい仲間との絆

ゴルフコンペ100回を達成



第100回和手グリーンクラブコンペ

小根山和手のゴルフクラブ「和手グリーンクラブ」(会長：西沢寅夫)が100回目のゴルフコンペを昨年11月、開催されました。

和手のゴルフの歴史は、平成2年、秋葉神社の春祭りの直会の中でゴルフが話題になり、始めたばかりの6人で、平成2年6月15日、大町市の日向山ゴルフクラブにおいて行ったのが始まりです。

第1回目のコンペは、初心者ばかりで、また、雨の中のプレーということもあって、皆、スコアは人に話せるようなものではなく、プロの2日分のスコアを1日で達成するというようなスコアでした。それでも楽しく1

日を過ごせたこともあって、帰ってきてからの表彰式では話が弾み、2回目のコンペの日程まで決める程熱が入ってきたものでした。(翌月2回目を行った)

その後、年に3〜4回のペースで回数を重ね、昨年めでたく100回を達成することができました。

100回の歴史を振り返れば、好プレー珍プレーは毎度のこと、時にはプレーに満足してゴルフバックをゴルフ場に忘れてきた人がいた時もあり、毎回、話題の尽きないコンペだったと思います。

また、ここ何年かは実施していないが、平成6年からは、その年の打ち上げには泊りがけで出掛け、二日間の合計で競うコンペも行ってきました。

今でこそプレー代も安くなりましたが始めのころは非常に高く、子育て等にお金がかかる中、また、仕事も忙しい中で、よく費用と時間の捻出ができたものだと感じています。

記録面では、参加回数は、96回が1人、95回が2人、94回が1人と続き、延べの参加者数は1082人になっています。優勝回数は、12回を筆頭に、11回が2人、10



回が1人と続いており、25人が優勝を経験しています。

利用したゴルフ場は、近隣から県外までの22か所に上り、利用した回数も1回から24回までと様々です。ちなみにホールインワンはまだ出ておりません。

また、参加メンバーが足りない時に手伝っていた方も、1回だけの人から最高28回の人まで、28名に上っています。

100回ものコンペを続けられたのは、ゴルフが好きということもあると思うが、「五の会」と称して、毎月5日に生活センターに集まって、ゴルフ談義や地域のこと、社会のこと等の情報交換をしながら、2時間ほど歓談して繋がりを深めて来たことが大きく影響していると思います。この「五の会」は、持ち回りの当番2名が酒を持ち参し、他の人は家にある簡単な肴を持ち寄って行っており、強制ではなく任意としたことが毎月欠かすことなく

続けられた要因です。

100回記念大会コンペに向けては、記念のマフラータオルを作成するとともに商品も豪華にするほか、参加者の確保や表彰式・懇親会の会場の手配など準備を進め、記念大会を昨年の11月10日に南長野ゴルフ倶楽部において5組20名で開催しました。優勝は残念ながらお手伝いの方にさらわれてしまいました。記念の大会を盛会に開催でき、1つの大きな目標が達成されました。

6人で始めた和手グリーンクラブも、一時は男衆のほとんどが参加するような時期もありましたが、残念なことに、既に4名が亡くなり、また、高齢や体調の関係で参加を見合わせる人も出てきて、今では2組がやっという状況です。人数は少なくなりましたが、これからもお手伝いをお願いしながら次の100回に向かって回数を重ねていきたいと思えます。

(館長)

小根山分館

御柱祭で心一つに



小根山分館を取り巻く環境も少子高齢化により世帯数(約二百戸)が減少、事業のマンネリ化は否めませんが、その中で分館伝統の事業を紹介したいと思います。

春の球技大会は老若男女が参加できる「ゲートボール」を3コート使用し、各組対抗を行なっております。終了後は小根山広場にシートを広げ表彰式の後豚汁とアルコールで懇親を深めております。

次に、納涼大会ですが、盆踊りから親子の触れ合いをメインに内容を変え、花火大会・金魚すくい・輪投げ大会・ビンゴゲーム等々、帰省した子供も参加し楽しい思い出作りに取り組んでいます。

また、御射山神社夏祭りの奉燈短歌は、昭和2年小根山青年団が主体となって創始し、昭和55年より分館が引き継ぎ教養部を中心に、短歌の募集・選者への依頼・掲示・片付け・投稿者への謝礼等の活動を守り続けています。

時代の流れに棹さしつつ1年も欠くことなく続き、



91回を数えた今年も村内外から農耕や日常生活を題材に50首の投稿がありました。すべての作品を灯籠に記し、神社の高欄に張り出し祭りから2週間ほど奉納します。小根山の美しい風習を鑑賞してみても如何でしょうか。



秋には、恒例となつている研修旅行があります。行き先・予算・参加人員等々の制約があり、役員にとって一番負荷がかかる事業ですが、名所旧跡を見学、ゆつくり温泉に浸り宴会を楽しむに

参加される区民が多く、満足げの様子を観るにつけ親睦旅行の重要性を再認識させられます。

今年度は諏訪大社經由荒神山温泉（辰野町）に40名が参加、盛会裏に終えることができました。

ユニークな行事として「蕎麦打ち道場」があります。17回を数える今年も、講師の宮尾栄子さん（高山寺）指導の下開催しました。参加者は不慣れな手つきで蕎麦粉と格闘、出来栄は予想通りですが、試食・懇親

の席では自分の打った蕎麦に大満足、若い参加者も楽しんで企画と喜んでいただいています。

地域社会の希薄化が叫ばれていますが、小根山地区には北信随一と言われる御柱祭があり、村内外の支援

を得ながら成功に向けて区民は心一つになります。

分館役員は、小根山に住んでいることに誇りを持ち、地域コミュニティの核としての役割を果たすべく、分館事業を推進して参ります。



サークル紹介（参加してみました！）

太鼓衆 岳響



今回は皆さんお馴染みの「太鼓衆岳響」の紹介です。活動は20年を過ぎ、村内外の様々なステージに参加されていますし、子ども達の「美桜里」もあるので何度も太鼓の響きを耳にされていると思います。また、昨年12月に伊那市で行われた日本最大級の和太鼓コンサート「第五回ニッポンドド御祭」に選ばれし数名の方が全国各地、海外から参加された演奏者（500人）と共に和太鼓の魅力をいかに発揮されてきたそうです。

練習は夜7時からですが、来た人から順に太鼓を用意し、叩き始めるそうです。この日は子ども達の指導も併せて太鼓の先生がいらっしやっていました。そして、中学校のアン先生が一番乗りで叩いていました。何人か集まったところで準備体操のような太鼓打ちです。太鼓の位置を順に移動しながらリズムよく打っていきます。五

分ぐらい叩き続けるのですが、終わった後は皆さん、「はあっ、はあっ。」

と息があがっていました。でもそこで座って一休みではなく、太鼓の位置を変えて次に行きます。

練習場所が講堂や体育館ほど広くないこともあるのかもしれませんが、半々に向かい合った位置での叩きでちょうどその間の辺にいたためか、風圧というか音圧というか、身体に風を感じ、鼓膜の動きを実感し、『どんどんどんど』全身に響いてきます。揃い打ちをした時は私の心臓が太鼓の音で脈を打ち間違えるのか？と思うほどの迫力がありました。

叩き終わった後は、一瞬の静寂があるのですが、耳が余韻を残していて。機会があつたら是非体験してほ



しい空間でした。

休憩をはさんで先生から笛の吹き方の指導がありました。水を入れた瓶を使って音を出す練習をしていましたが、皆さんあつという間に音が出ていて、さすがーと思えました。

その後は、今後参加するステージに向けての練習や、立ち位置、動きを確認していました。

太鼓を叩く姿を見て改めて思ったことは、脚を大きめに開いて腰を落とし背筋を伸ばして立ち、腕を振り下ろすタイミングでの屈伸、ただ叩くだけではなく音の強弱、変化を出す為のキレ。全身を使つての太鼓なんだなあと、つくづく感じました。腕も脚も最初はさすがに筋肉痛だそうです。昔から知っている方たちばかりですが、あの頃とあまり変わりが
ないような・・・。

太鼓を叩く時、気
を付けていることを
お聞きしました。

『無心で叩くこと。何



か考えていると間違える』

『ストレスやイライラを晴らそうと叩くと音に出るので、イガイガした気持ちを持ち込まないこと』

だそうです。ストレス発散にいいんじゃないか、と思っていましたが発散しました。叩いて発散した
い時はゲームの太鼓の達人でしょうか。でもゲームとは
言えいつの間にか無心になっている時もあるのですが。

ちよつと体験してみたい方は、日時の確認を公民館に
問い合わせて参加してみてください。叩くのはちよつと、
という方も迫力のある音を是非体験してみただきたい
です。

「太鼓衆岳響」の皆さんありがとうございました。

(松本治代)



深澤 郁喜さん（小根山）

「小川村に生きる」とはまだ言えませんが、6年ほど前から小川村でお世話になっていきます。街の喧騒がなく空気の清澄さと星空がきれいな所に魅かれました。先輩に「小川村に転居する」と話したら前村長の伊藤さんは教え子だから協力し合って頑張ってくれと言われ驚きました。転居でご挨拶をしたお隣や組の方々は温かく迎えて下さって有難かったです。近所のスポーツ交歓会も年に何度かあって、ご親切に競技に入るよう誘って下さるのですが、初めての競技なので参加したチームの足を引く張る怖さから専ら応援に努めています。

転居後間もなく隣家の方が畑を貸して下さり、最初の肥料の手当てまでして下さったので家庭菜園を始めました。自然栽培を心掛け、野菜作りのテキスト片手に努力していますが、テキストの指導と実際の作業との間には

ギャップがあつてなかなか思うようには参りません。それでも初年度にはナスやトマトをはじめ結構な収穫が上がりました。しかし、次年度からは当初の思惑通りには参りませんでした。気温が1度上がれば土も野菜も敏感に反応し、忖度がないことを知りました。手抜きをすれば手抜きをしただけの反応が出ました。

日影の唐辛子好きの方が、世界で最も辛いと云う、外国産の珍しい唐辛子の苗を分けて下さり植えてみました。大きく育って1本で120〜130の実を付けてくれました。只、辛味が他所で食べた時の辛さとは違い薄いように感じ、知り合いの信大農学部の唐辛子を研究されている教授に、ハバネロの見本を送って調べて戴きました。品種も辛さも特段問題はないが、辛味は作付けの土地や気候によっても異なり、畑の土の性質やそこに残留している肥料との関係もあるので、小川産ハバネロの特徴として扱うこともできるのではないかとこの事でした。

唐辛子の調理法を考えた時「とっから味噌」の作り方でNHKの講師にもなった親戚がいることを知り、作り方を教えて貰い収穫したハバネロなどで「とっから味噌」を作ってみました。ハバネロの「とっから味噌」は区野沢菜作りのご苦労会で試食して貰ったら「おいしい」という評価も戴きました。「とっから味噌」は結構な量の砂糖を使います



が、砂糖は体に悪いというので最初から指定の半量で作っていました。甘酒だったら砂糖を替わずに済むかと思い、ハバネロの「とっから味噌」を甘酒で作ってみました。味見すると、辛さが尋常ではありません

でした。唐辛子好きの伊藤さんはどういわれるかと思いついて戴きましたが「辛さは韓国産並みが丁度よいくらいだよ」と言われてしまいました。

過去の統計では村を主体とした北信地域は県でも指折りのそばの生産地でした。近所の人たちの「やらす会」に入れて貰って毎年淡竹の収穫などの手伝いをしていましたが、今の山の杉林の多くは嘗て畑であったところだと聞かされています。近年はこの辺りのそばや小麦の生産量は統計に余り出なくなっていますが、代替物もなく主要な産物が消えて行くのは寂しいものです。

平成31年1月22日付の「長野市民新聞」に「中条日下野田6区10年を写真集に」の記事が載っていました。同地域に残って暮らしている住民の記録を写真に残して住む人のいなくなるであろう故郷の存在をせめて写真集に留めておこうというものでした。

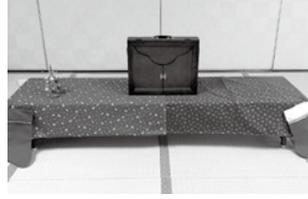
小川村の切実な問題として、次世代となる人々がこれからの村での豊かな生活にかけられる夢を実現できる礎を、今「生きている」世代が築けているかを問われているように感じられました。

12月8日

『冬のおはなし会&クリスマスパーティー』

今回は紙芝居舞台を使用してクリスマスにちなんだお話を2冊読みました。読み聞かせの後は、お楽しみの図書委員手作りワッフルに、たっぷり生クリームをのせて華やかにデコレーション☆季節の果物りんごをそえて美味しくいただきました。

今年子どもたちと紙芝居の世界を通じて素敵な時間を過ごすことが出来ました。



12月8日に、図書委員会主催の『冬のおはなし会&クリスマスパーティー』を行いました。美味しいスイーツを食べるイベントは私たち図書委員も楽しみにしており、今年も賑やかに過ごせると思っておりましたが、残念なことに体調を崩してしまつたお友達が数名…いつもよりしつとりとしたクリスマスパーティーでした。



ブックスタート ~生後6ヶ月の赤ちゃんへ本のプレゼント~

『子どもに読んで聞かせたい本は?』 平成30年4月から
平成30年5月生まれの赤ちゃん

『かみゆんりす』
中川 かなり



岩倉 さや 沙弥ちゃん

『あいうえおのえほん』
よした きよし



小泉 にちか 仁千香ちゃん

『しろくまちゃんのほっとけーき』
わかやま けん



宮澤 はる 春ちゃん

協力隊のみなさんに 聞きました！

『私の人生を変えた一冊』は？

- ①名前（敬称略）
- ②書名・著者名
- ③本の内容
- ④どんな影響？



①大西未沙子

- ②『マフィンおばさんのパン屋』・竹林亜紀
- ③パン屋の見習い少年アノダッテがこっそり地下の厨房で好きな物を詰め込んだ超・超巨大なパンを焼くお話。
- ④私の憧れやときめきの原点、自分の核となる部分はこういった幼少期の本で形成されているような気がします。

①竹内 愛実

- ②『Life in the desert 砂漠に棲む』・美奈子 アルケトビ
- ③アラブの砂漠で約 200 匹の動物と暮らしている著者による、日常を切り取った写真集。
- ④この本を読んで、「何もないところで暮らす」ことへの憧れが強くなりました。

①廣田 晃里

- ②『ブレーショング』・保坂和志
- ③若者達の奇妙な共同生活と、猫のいる日常を描いた小説。読書中にだけ広がる世界は、特別では無いが故に愛おしい。
- ④二十年程前に出会った一冊です。言葉を使って既存の小説を超えようとする著者の姿勢に、私はいつも勇気づけられます。

①古谷 浩

- ②『アメリカンビート』・ボブ・グリーン
- ③80年代アメリカの有力紙のコラムニスト、ボブ・グリーンへの傑作コラム集。
- ④理系学生の自分が外国に興味を持つきっかけになり、気づけば外国企業相手の仕事についてました。

①梨本 利信

- ②『グランドファーザー』・トム・ブラウン・ジュニア
- ③一人のインディアンが生涯をかけ心理を探求した実話。名言多数！
- ④自分がケアテイクヤーやアウトドーマンになったきっかけをくれた本です。

①今村 誠人

- ②『アミ 小さな宇宙人』・エンリケ・バリオス
- ③墜落した UFO からでてきた小さな男の子アミと出会った 10 歳の少年ベドゥリト。世界一美しい物語。
- ④食生活が変わった要因の一つ。魂に響き、より良い世界を作る為に生きたいと思うようになりました。

①太田 尊生

- ②『わが家電力 12 歳からとりかかる太陽光発電の入門書』・テンダー
- ③太陽光発電の作り方を書いた入門書
- ④個人で電気の自給ができる事に驚き、電気機器の電力料がどのくらい必要か客観視できる本です。

①中村 雄弥

- ②『日本の川を旅する』・野田知佑
- ③日本におけるツーリング・カヤックの草分けである著者が 1980 年代初頭、日本各地の失われゆく「清流」を旅した記録。
- ④高校時代、既存の価値観に縛られず、自由に旅する著者の生き方に強烈に憧れました。その後、川下り&登山にのめりこむようになった自分の原点です。

祝平成31年 小川村成人式



成人式

1月3日、小川村公民館にて平成31年小川村成人式が開催されました。今年の新成人者は小川中学校平成25年度の卒業生で、対象者21名のうち20名が参加。晴れて大人の間入りを果たしました。

式典では、親御さんや当時の恩師も見守る中、新成人代表挨拶や記念論文発表が行われ、新成人としての抱負を語りました。続く来賓の方々による祝辞では、「長い人生、いくつかの節目があります。一瞬立ち止まって、自分を支えてくれた方々に感謝の気持ちを持つてください。そしてこれから自分に何ができるか、何をしたらいいかを考えてください。多くの人が支えてくれます。」(染野村長)「皆さんはまだ若い。ミスしてもやり直すチャンスがあります。恐れず、チャレンジをしてほしい。そして何か一つ趣味を持ち、充実した人生を送ってください。」(伊藤幸光議長)と新成人へ向けエールが送られました。

また、記念行事では「美桜里」の皆さんによる元気いっぱい、大迫力の和太鼓演奏が行われ、先輩方の門出を祝いました。

新成人者によるスピーチを一部抜粋して掲載します。

《新成人代表挨拶》 松本 一輝さん

いまの私たちの大本はこの小川村で作られました。村の人々の優しさや温かさ、保育園から始まり小学校・中学校と一緒に学び、遊んだ仲間との想い出や絆、両親や先生、関わった方々から受け取った愛情や厳しき、責任そして村のきれいな水や四季により、様々な顔を見せる山に与えられた感受性。様々なものを生活の中から教えられ、また培ってきました。これらは現在の私たちの道しるべであり、根本を構成する要素となっています。また5年前、高校進学にあたり、初めて小川村から離れたとき、新しい環境の中で新しい人々との出会いもありました。今思い返すと、新しい人々の出会いが私たちを成長させてくれる一方で、私たちを育ててくれた小川村で培ってきたことが、学校生活の助けとなってくれていたことが分かりました。私たちは二十歳を迎え責任のある立場になっていきます。この小川村で培ってきたことを指針に節度ある行動や責任をもって社会貢献に努めてまいります。

《記念論文》 清水 遥名さん

私は幼少期から高校までを小川村で過ごし、現在は一人暮らしをしております。一人暮らしをして一番実感するのは、親の存在がどれだけ大きかったかということです。調理や洗濯、掃除など今まで親がやってくれていたことを自分がやるようになって初めて、親の苦勞が分かりました。疲れて遅くに帰ってきてても、誰も自分の代わりにやってくれる人がいないというのはつらいことなのだと感じました。そのため、高校まではあまり家事の手伝いをしてこなかった分、実家に帰ったときはなるべく手伝うようにしています。小さなことではありますが、これも一つの親孝行になればと思っております。

この春からは長野県を離れて、新たな土地で新しい生活を始めて参ります。支えてくださった方のためにも編入学先の大学で一所懸命勉学に励み、教養を身につけて卒業し、胸を張って社会人の仲間入りを果たしたいと思っております。

最後に、小川村の文化や伝統を大切に、いつ帰ってきても安心できるような故郷であることを願っております。

青木 駿さん

「皆さんの夢は何ですか。」こう聞かれて、「私の夢は〇〇です!」と答えられる人もいれば、「今の私には夢がないなあ。」という人もいると思う。最近では自分のやりたいことが見つからない人も多いと感じる。でも、僕はどんな小さな夢であつてもいいと考えている。例えば「アメリカにいつてみたい!」とか、「速く走れるようになりたい!」「新鮮なお魚が食べたい!」でもとてもいい夢であると言つていいと僕は思っている。そういつた小さな夢をかなえていくことが人間のいきがいであると考ええる。

社会人として働いている人は、やりたい仕事ができているだろうか。別にやりたい仕事ができなくてもいいと思う。そこで必死に汗水たらして稼いだお金で夢を買えばいいと思う。この日本には夢の国があるように、夢をかなえるのにお金は必要になつてくると思う。もちろんお金で買えない夢もあつて、それが人生で大きなものになることもあるが。

そして、やりたいことを見つけたら「そのやりたいことをしたいだけやり続ける。」というわけにもいかない。「やりたいこと」には「やりたくないこと」も必ずついで

くると思う。勉強や過酷な労働などがそれである。中には好き好んで勉強や労働をする人もいると思うが。そういう「やりたくないこと」をこなしてこそ「やりたいこと」ができるのだと僕は考える。

そんな僕の夢は、「理学療法士になること」。正確に言えば、「理学療法士になつて患者さんの夢や希望を叶えること」である。理学療法士に説明すると、リハビリテーションを行う人だ。身体に障害を持つてしまつた人に対して機能の回復を図るため、治療を行う。また、介護予防として運動を指導したりもする。そうして可能な限り多くの人の希望を叶えることが僕のしたいことである。みんなに夢や希望を与えられるようになることが僕の夢だ。

〈成人式を終えて〉

私自身も2年前に成人を迎え、今回は取材という形で成人式に参加させていただきましたが、一回りも二回りも成長した後輩達の姿に感動し、涙腺が緩みました。とても思いやりにあふれたクラスなので、これからもその繋がりを大事にしていってほしいと思います。ご成人おめでとうございます!

(笠井里奈)